

あまから手帖2025年7月号「神戸のメモリー」を6月23日、発売いたします

2025年6月



今年で阪神・淡路大震災から 30 年の月日が経ちました。当時を乗り越えたあの老舗も、新店も、それぞれが共存している 2025 年の神戸。ますます活発な流れが来ています。

「今、話したい店主がいます。」では、この 30 年についてレジェンドシェフたちが振り返ります。また、1995 年の長田を描いた作品『港に灯がともる』より、安達もじり監督に劇中に登場する老舗を語っていただきました。

そして、常連客が店を継いで復活したラーメン店や、「バラライカ」跡地にオープンした東欧料理の店など、新たな風を感じる「バトンを繋いで。」。さらに、昨年 11 月に閉店した神戸っこ馴染みの洋食「ラミ」。最終日の様子と、シェフの味を継ぐ喫茶店の物語を「ラミとエス」にてお届け。その他、連載でもお馴染みの安田謙一さんと飲んで回る「極私的神戸地下鉄環状線化計画」。最近話題のスイーツ「クレープと私。」。マメイケダさんや大竹聡さんによる絵日記やエッセイ「酒場のこと。」などなど。新旧の実力店、酒場に甘いものに韓国料理まで続々と。

今改めて感じたい。共有したい。愛しき港町のメモリー。

<特集構成>

●神戸に灯がともる

●ラミとエス

●和田岬と、そのあたり。

●食べて乗って吞んで、また乗って吞む。

●バトンを繋いで。

●クレープと生クリームと私。

●今、話したい店主がいます。

●神戸のソウルを感じたい。

●酒場のこと。

●その名は、盤杯。 など

<連載>

●作家・町田 康の「食にかまけず」

●写真家・長野陽一の「あま、から」

●料理研究家・冷水希三子の「からから料理帖」

●マスターソムリエ・岡 昌治の「日本ワイン、ようわからん」

●フードコラムニスト・門上武司の「関西『揚げもん』研究所」

●ミルクボーイ・駒場 孝の「こまから手帖」

ほか

<媒体概要>

「あまから手帖」は関西の食文化・情報を伝える雑誌として 30 代後半～50 代の方を中心に
ご好評いただいております。

誌名：あまから手帖 発売日：毎月 23 日 発行部数：10 万部

販売方法：書店・駅売店・コンビニエンスストア（一部）

販売地域：関西全域および全国の主要都市（一部） 価格：880 円（予価）

※本誌に関するお問合せは下記までお願いできましたら幸いです。

※各種取材、メディア出演にもご対応致します。